

長江・三峡クルーズ

I. 「長江」と「三峡」

「長江」は、世界的な大河です。黄河と並んで中国文明を代表する河です。



水源は、ヒマラヤ山脈の北側・タングラ山脈のグラタンドン山（標高：6,621m）の南麓の氷河です。氷河から流れ出た水流は、長江の源流：沱沱河（トト河）となり、南側の湿地帯からの水流：当曲（ダムチュー）、北側からの楚瑪爾河（チュマル河）を集めて「通天河」となります。

通天河は、かつては物語の上の幻の河で、**River of Heaven** と呼ばれていましたが、今では長江の源流として憧れの河になり、長江クルーズのコーヒーカップのデザインにもなっています。

通天河は、やがて砂金で有名な「金沙江」となって、高地の高山の間を巨大な峡谷を刻みながら東に進みます。左岸には哈巴（ハバ）雪山、右岸には玉龍雪山という 5,000m 級の高山が聳え立ち、河の両岸には落差 2,000m にも及ぶ断崖絶壁が迫っています。



グラタンドン山（唐古拉山脈、格拉丹東山）



哈巴雪山と玉龍雪山



金沙江、虎跳峡

金沙江は、虎跳峡等の山岳部を抜けると四川盆地に入り、岷江と合流、「長江」となります。

長江は、四川盆地では穏やかに流れていますが、四川盆地の東端：重慶を過ぎると、また新たな山塊に出会い、世界的に有名な峡谷「三峡」を創り出します。

1. 「長江三峡クルーズ」

この長江・三峡のリバークルーズが、今、世界的に憧れの的になっている「ミディ運河クルーズ」、「ナイル河クルーズ」、「ライン・マイン・ドナウ河クルーズ」等と並び称される「長江・三峡クルーズ」です。

長江・三峡クルーズも、20 世紀の間は川幅も十分でなく、航路に難所もあったために、船も小型で片方交互通行の場所もありました。

しかし、21 世紀に入って、100 年越しの巨大プロジェクト「三峡ダム」の完成によって「長江・三峡クルーズ」は、優雅なリバークルーズになりました。

「三峡ダム」は、100 年以上前（1919 年）に、孫文が中国の将来像に関する「建国方策」の中で唱えたのが最初です。以来、100 年余を経て、構想は実現して、中国の発展に大きく寄与しました。

お蔭で、船もゆったりした快適な船になり、全室：バルコニー付き、浴槽付きで、船側の回遊路、屋上の展望デッキ等もあり、雄大な景色を眺めながらの心地良いサロンや食堂も完備しています。兩岸の断崖や、巫山十二峯の紅葉を眺めながらのリバークルーズは、まさに理想のリバークルーズという趣きです。

「長江・三峡クルーズ」は、「河」と言ってもスケールが大きく、三峡ダムの「バックウォーター」は、660km 上流の重慶に達しています。このクルーズの大きさは、「リバークルーズ」と言っても、むしろ瀬戸内海のクルーズに近い趣きでしょうか。（因みに、大阪から門司までは、およそ 550km です。）

クルーズは、重慶から白帝城までは、川幅も広く、静かな船旅ですが、旅の途中で気が向けば、「重慶市」の探訪や、「大足」の石刻、「豊都鬼条」等を訪れることもできます

2. 「重慶」

「重慶」は、世界屈指の大都市です。重工業を中心に、人口は、3,000 万人。西部発展の中心です。

グルメは、「麻辣火鍋（マァラァフオグオ）」が有名です。麻（マァ・中華山椒）、辣（ラァ・唐辛子）などの麻辣味香辛料をベースとしたスープに野菜、肉団子、魚、鶏肉、レバー等々の臓物などを入れて煮込み、薬味を入れたごま油を付けて食べます。（激辛注意とされています）



重慶中心街解放碑広場 歩行者天国



洪崖洞



四川名物火鍋料理

3. 「大足石刻」

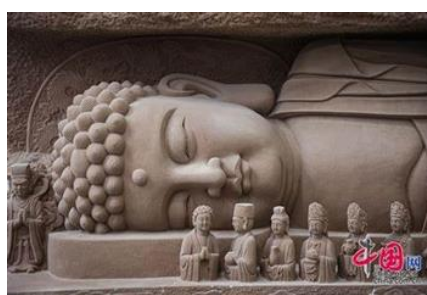
大足石刻では、断崖に 5 万體以上の石像が刻み込まれています。莫高窟、龍門、雲岡と並ぶ石窟で、石刻の多くは大乗仏教をテーマにしていますが、道教の石刻も多く、さらには儒教題材の石刻もあり、中国三大宗教の石刻が揃っています。道教の石刻は、見慣れないこともあって迫力があります。宝頂山にある仏陀入滅の巨大な「釈迦涅槃像」また、金箔を張った「千手観音菩薩像」が有名で、千手観音は、実際に千本以上の手を有しています。



世界遺産「大足石刻」



千手観音



釈迦涅槃像



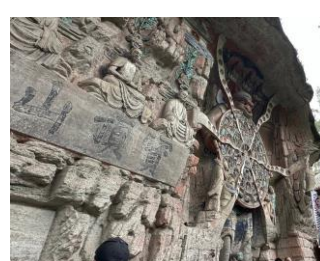
巨大摩崖仏像群



道教の石刻は迫力があります



これが儒教の親孝行？



宝頂山 輪廻の彫刻

4. 「豊都鬼城」

豊都鬼城は、道教のお寺です。道教では、人間は、死ぬと鬼になります。豊都鬼城は、人が、死後帰るべき場所となっています。鬼門関を入り、奈何橋を渡り、黄泉路を進み、閻魔殿に入り、様々な陰府地府があります。地獄の鬼神の千態万様は壮麗で奇怪です。



豊都鬼城・鬼門関



奈何橋



諸国漫遊

5. クルーズ：栈道・杭の跡

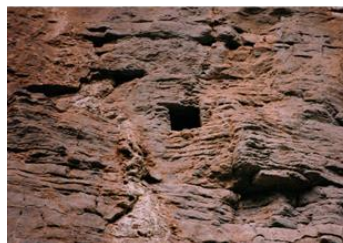
重慶まで水位が上がって、川幅が広がった長江は、片側 3 隻ずつの大型船が行き交います。長江の流れは、穏やかです。重慶から白帝城までは、ゆったりした船旅です。

兩岸を眺めていると、河沿いには断崖の途中に、古く狭い栈道があります。これは最初は、諸葛孔明が魏を討つために峡谷に栈道を造ったものですが、その後、四川各所の主な川筋に設けられました。17、18 世紀頃には、長江を下った船をもう一度上流に戻す際に、人足が縄で船を引ながら断崖沿いに歩くための曳舟道として使われました。

栈道は、急峻な地形の崖に杭穴を掘り、角材を通し、その上に板を渡して栈道としました。かつては、栈道の位置は、崖のかなり高い位置に作られましたが、水位が上昇した今は、その杭の穴を間近に見ることができます。



川幅が広がった重慶の水路



栈道の杭の跡



蜀の栈道

重慶からおよそ 500km 下流に「白帝城」があります。

6. 「白帝城」

白帝城は、三国志を読んだことがある人なら一度は訪ねてみたい城です。長江の北岸にある城で、蜀の劉備玄徳の終焉の地です。長江からの高い崖に囲まれた白帝城は、三峡の入口を抑える要害の地です。現在は三峡ダム建設により、長江に浮かぶ島になっています。頂上には白帝廟が建てられています。



白帝城



劉備玄徳の最後：後事を孔明に託す

三国時代、蜀の劉備が夷陵の戦いで呉に大敗して逃れたのが白帝城です。呉の大將陸遜は、敗走する劉備を追って夷陵から白帝城を目指して夔関（きかん）まで来ましたが、その先の山（魚腹浦）から殺気を感じて軍を止めます。

伏兵の存在を疑い、斥候に様子を探らせたところ、人馬の姿はなく、ただ長江の川辺に 80～90 個の石が積まれているだけとのことでした。「あれは数年前、諸葛亮が砂浜に石を並べて造った陣です」と土地の人がいいます。陸遜は、数十騎だけを連れて視察に行きますが、石陣から外に出ようとする激しい風雨や砂埃に見舞われ、巨石や急流にどの進路も塞がれて出られなくなってしまう。この諸葛孔明の「石兵八陣」により、劉備は無事に白帝城に入ることが出来ました。陸遜は、諸葛孔明を恐れ、軍を退きます。

劉備は、諸葛孔明に、後事を託して、この城で没しました。

諸葛孔明の像と「出師の表」が残されています。



石兵八陣



三顧の礼・孔明を招く



孔明と出師の表

Ⅱ. 「三峡」

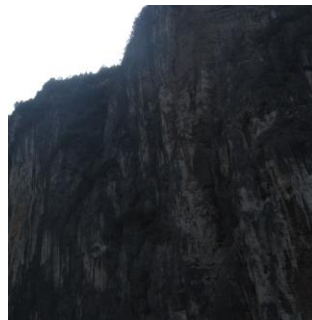
白帝城を過ぎれば、いわゆる「三峡：瞿塘峡、巫峡、西陵峡」の始まりです。

三峡では、長江は、四川盆地の東を塞いで東西方向へ走る巫山などの険しい山脈を貫いて流れています。長江三峡の両側には、高い山が聳え立ち、時に霧や雲が立ち込め、風景は山水画のように雄大です。

1. 「瞿塘峡」(くとうきょう) は、川幅が最も狭く、風景の峡谷らしさは三峡の中でも際立っています。

瞿塘峡の川幅は、狭いところでは 100m にもならず、この狭い峡谷の北側には赤甲山、南側には白塩山があり、その高さは川面から 1,200m に達し、峡谷を通る船を圧迫するような急傾斜が聳え立っています。

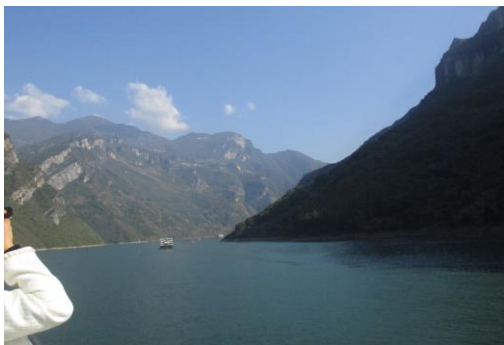
赤甲・白塩の両山に囲まれた門のような部分を「夔門 (きもん)」と呼びますが、「夔門天下雄」としてその雄大さは称えられていて、中国の 10 元紙幣の裏側に図柄としても使われています。



瞿塘峡・夔門

2. 次は、「巫峡」(ふきょう) です。長江は、四川盆地東部の褶曲山脈群・巫山山脈を貫いて東へ流れていますが、地殻変動により峡谷はますます深くなり、現在のような陰しく切り立った地形になりました。

山が迫るために、川面を太陽が照らすことは少なく、「雲と霧の峡谷」と言われて来ました。巫峡の両側にある景勝地は「三台八景十二峰」と呼ばれ、特に雲の中に聳える神女峰は、その代表的な存在です。



巫峡十二峯



神女峰



神女峡クルーズ

楚の懷王が昼の休みにまどろんで、夢の中で巫山の神女と契りを結びました。神女は立ち去る際に「私は巫山の南の、険しい峰の頂に住んでおります。朝は雲となり、夕べは雨となり、朝な夕な、この楼台のもとに参るでしょう」と告げた、という故事が記されています。このことから、「巫山雲雨」は男女の夢の中の交わりを意味する故事成語となっています。

巫峡には、峻しい山々から、多くの小溪流が流れ込んでいます。そのひとつ、神女峰の峡谷を小型の船に乗り換えて訪ねる「神女峡クルーズ」は、断崖を間近に眺める素晴らしい旅です。

3. 最後は、「西陵峡」です。

巫山の東で、南北方向に並行して走るいくつかの山脈の谷間を、長江が次々と貫いて行きます。兩岸には険しい奇岩の山々が連なり、いくつかの寺院がある以外には人の姿はなく、暗礁、難所、急流で、三峡下りの危険な場所とされていました。

そのひとつ「諸亮溪谷」では、ここを通る人達には有名な危険な浅瀬といくつかの岩礁があり、水の流れが乱流で、「諸亮は、幽霊の門である」と噂されていました。その一つの岩には、「私の所においで」という3つの大きな文字が刻まれていたとのこと。

今では、三峡ダム completion によって、危険な浅瀬は、もはや存在していません。



西陵峡の峡谷



「長江・三峡クルーズ」記念コーヒーカップ

III. 三峡ダム

「三峡ダム」(长江三峡大坝)は、長江三峡のうち最も下流の西陵峡の半ばに建設されました。



「三峡ダム構想」は、100年前に、孫文が「建国方策」の中で提唱しています。しかし、欧米列強の侵攻、日中戦争等、中国を巡る戦争、内戦は絶え間なく、この構想も、長らく棚上げになっていました。

しかし、1949年に中華人民共和国が建国されると、共和国政府は、1950年に長江水利委員会を設置し予備調査を開始、調査は1956年に完了、1963年に着工する方針が発表されました。しかし、中ソ対立や文化大革命などの影響により、しばらく計画は進展しませんでした。

やがて、文化大革命が終結すると再び三峡ダムの構想が浮上し、1983年には三峡ダム事業化調査報告が提出され、1992年に「全人代」で採択されました。

1993年に、「長江三峡工程開発総公司」が設立され、1994年には、本工事が開始されました。1997年には、第一期工事完成、2003年に第二期工事が完成し、湛水を始め、水力発電の部分稼働が始まりました。

2009年には、ダムが完成し（高さ：185m、堤頂長さ：2,309m）、2012年から、水力発電の本格稼働が始まりました。

三峡ダムのバックウォーターは、三峡ダムから重慶市街に至る約 660 キロメートルに及んでいます。

このダムの成果は、「第1」に、治水。洪水、旱魃の調整です。

三峡ダムの最大の目的は、長江の洪水の抑制です。堤高 185 m の三峡ダムの最高水位は海拔 175 m に設定されていますが、毎年 6 月頃には海拔 145 m 辺りまで水位を下げ、洪水期に備えます。三峡ダムの巨大な貯水量は、水量調節を容易にして洪水を抑制します。また、豊水期に貯留した水を、渇水期に放出することによる旱魃対策も大きな目的です。

「第2」は、長江の水運の画期的改善です。

ダムによって水位がかさ上げされることにより、外洋航路の 1 万トン級の船が四川盆地の玄関口である重慶市中心部にまでさかのぼることができるようになるほか、これまで三峡に多く存在していた航行の難所がすべて消失し、航行が容易になることによって航行可能な船舶の数が増加しました。

長江の輸送可能量が増加することによって物流が円滑になり、中国政府の進める西部大開発の中心的な役割を果たしています。

三峡ダムの水運の核心は、片側 4 船線、高さ 48m の 5 段閘門による最新型水路です。

もうひとつが、世界最大の船舶用エレベーターです。最大積載量：15,500 トン、昇降プールの大きさ：長さ 120m、幅 18m、水深 3.5m で、世界最大規模の、垂直型（ラック&ピニオン式）船舶用エレベーターです。積載量：15,500 トンといっても、一緒に運び上げる水の量が 9,000 トンなので、3000 トン級の船舶までは容易に上げ下げ出来ると言われています。

「第3」は、発電です。

三峡ダム水力発電所は、2,250 万 kW の発電が可能な世界最大の水力発電所になりました。（これは最新の原子力発電所や大型火力発電所の 16 基分に相当）

因みに、戦後日本に不可欠な難工事プロジェクトとして語り継がれている「黒部ダム」の最大発電量は、33 万 7,000kW です。



三峡ダムは、スペースシャトルから、肉眼で識別できるそうです。





世界最高の人工水路として有名な三峡ダム左岸「5段閘門水路」



やはり世界最大の「船舶用エレベーター」



長江・三峡左岸の水路：「5段閘門水路」と「エレベーター水路」

IV. 宜昌、荊州、武漢

1. 「宜昌」

宜昌は、三峡ダムの下流左岸に位置する戦略的な要衝です。長江を行き交う船の寄港地で、経済的にも発展を遂げています。

宜昌の歴史は長く、長江の三峡の入口として軍事的に重要な地です。楚と巴の文化の発祥の地と言われ、三国志では、劉備が呉の陸遜に敗れて最後を迎える「夷陵の戦い」の古戦場でもあります。

日中戦争では、日本の支那派遣軍がここまで占領して重慶にあと一歩まで迫り、蒋介石の心胆を寒からしめた地でもあります。

ここで「湖北料理」を味わいました。「合渣（ハオジャン）柔らかな食感のスープ」「炕土豆（カンツードウ）ジャガイモを香ばしく焼く」、「胡椒餅（フージャオビン）肉まん」、「火鍋（フオグオ）四川の火鍋とは異なりマイルド」等々。



宜昌の湖北料理



宜昌

2. 「荊州」

荊州は、歴史の街です。長江の中流、天下の要地です。

劉備が曹操に追いまくられて、劉表の下に匿われていた時に、諸葛孔明の神がかり的な活躍で、呉の水軍を用いて有名な「赤壁の戦い」で曹操を破ります。赤壁は、荊州市の東南部の烏林です。

赤壁の戦い以降、荊州の北部は曹操、中南部は劉表と孫権でした。

この時に、諸葛亮は、「天下三分の計」という構想・戦略を劉備に進言します。

しかし、これを劉備は聞き入れず、時を失ってしまいます。その後、劉備は、拾い物のように蜀を手に入れますが、荊州は手放すことになり、これが蜀の滅亡に繋がって行きます。

蜀の名将：関羽は、今でも絶大な人気を誇り、至る所に関羽の像が設置されています。

「荊州観光投資開発集団」は、「関公義園」の「関公文化展示センター」（2 階建て）の上に、巨大な「関羽像」を設置しました。57 メートルの高さは日本のマンションの 19 階に相当し、関羽が手に持つ青龍偃月刀に至っては、長さが 70 メートルに及んでいます。4,000 個以上の純銅製パーツで組み立て、重さは 1,200 トン強です。



高さ 57m の関羽像



荊州古城



荊州古城城壁から見た荊州市街



劉備、孔明、関羽、張飛

3. 「武漢」

武漢は、長江とその支流である漢江の合流点にある「武昌・漢陽・漢口」の街からなり、中国有数の工業都市、文教都市及び交通の要衝です。人口は 1,108 万人。市内に数多くの湖があり、市全体の面積の約 4 分の 1 を占め、「百湖の街」とも呼ばれています。

武漢長江大橋（武汉长江大桥）は、1957 年、長江にはじめて架けられた橋で、全長 1,670m、道路部の幅 22.5m の 2 層鉄道道路併用橋です。武漢っ子の自慢の橋です。

後は、何と言っても「黄鶴楼」です。

黄鶴楼では、多くの詩人が詩を詠んでいます。

李白の七言絶句は、あまりにも有名です。

故人西辞黄鶴楼 煙花三月下揚州 孤帆遠影碧空尽 唯見長江天際流	故人西のかた黄鶴楼を辞し 煙花三月揚州に下る 孤帆の遠影碧空に尽き 唯だ見る長江の天際に流るるを
--	---

黄鶴楼の言い伝え：昔、辛氏という人が酒屋を営んでいました。そこにみすばらしい身なりをした道士（仙人）がやってきて、酒を飲ませて欲しいという。辛氏は嫌な顔一つせず、ただで酒を飲ませました。半年余経ったある日、仙人は辛氏に向かって「酒代が溜まっているが、金がない」と言い、代わりに店の壁にみかんの皮で黄色い鶴を描き、去って行きました。

この鶴は、客が手拍子を打って歌うと、それに合わせて舞いました。そのことが評判となって店が繁盛し、辛氏は豊かになりました。その後、再び店に仙人が現れ、笛を吹くと黄色い鶴が壁を抜け出して来ました。仙人はその背にまたがり、白雲に乗って飛び去りました。辛氏はこれを記念して楼閣を築き、「黄鶴楼」と名付けたといわれています。

崔顥（さいこう）の七言律詩は、この言い伝えを踏まえて詠まれています。

昔人已乗黄鶴去 此地空餘黄鶴楼 黄鶴一去不復返 白雲千載空悠悠 晴川歷歷漢陽樹 芳草萋萋鸚鵡洲 日暮鄉關何處是 煙波江上使人愁	昔人已に黄鶴に乗りて去り 此の地空しく余す黄鶴楼 黄鶴一たび去りて復た返らず 白雲千載空しく悠悠 晴川歴歷たり漢陽の樹 芳草萋萋たり鸚鵡洲 日暮郷関何れの処か是なる 煙波江上人をして愁えしむ
--	--



武漢の夕陽：長江大橋を超えて長江に映っています



「黄鶴楼」：彼方に長江最初の「第一長江大橋」